



国際交流ラウンジ

国際連携推進機構では、多文化理解の推進、学生の語学力の向上、留学や国際交流活動への動機づけを促すことを目的に令和元年度に静岡キャンパス、令和4年度に浜松キャンパスにおいて「国際交流ラウンジ」をオープンしています。国際交流イベントや国際教育プログラムを主催し、国際的な活動・関わりに関心のある日本人学生と留学生を繋ぐ拠点として展開しています。国際交流ラウンジは、両キャンパスともに、授業期間中は毎日10時～17時まで自由に利用できるように解放されており、ランチを食べたり、歓談したり、海外留学をしなくても普段の生活の中で国際交流ができるスペースとして活用されています。学生スタッフがイベントの企画運営に関わり、様々なトピックについて話したり、ダンスやゲーム、スポーツを楽しんだりと、交流

イベントも多く実施されています。英語が堪能な留学生が進行役になってゲームやカジュアルな英会話を楽しむイベントも開催されるなど、リラックスした雰囲気の中で英語力を鍛えることができます。英語のネイティブスピーカー教員による英会話レッスンEnglish Loungeも留学希望者に人気です。留学生へのサポートも充実しており、日本語の会話練習や書類の説明、レポートの日本語添削、勉強や生活の相談など多様なニーズに対応しています。授業期間中は週2～3回の割合で相談対応をしています。また、留学生・日本人学生間の国際交流を活発にするために、「静大パディ」という学生コミュニティを運営しています。パディは、留学生・日本人学生でペア/グループを作り、互いにサポートしながら交流することを目的としています。



インターアカデミア

本学は、1990年代から中東欧の多くの主要大学との間で大学間交流協定を締結してきました。この交流の基盤を実体のあるものとして発展させるため、「A global brain-networkの構築」というコンセプトの元、International Conference on Global Research and Education "Inter-Academia" (国際会議)を協定大学に提案しました。これに応じて平成14年9月に、コメニウス大学が最初のインターアカデミアを開催し、以後、毎年夏季に協定大学が交代で幹事大学を務める形式で開催しています。インターアカデミアでは、学生教職員による研究発表の他に、参加大学の紹介、開催大学の研究施設見学、各大学で進められている教育研究改善の情報交換、人事交流促進のための諸イベントなどが行われ、大学間の国際活動のシナジー効果を高める多様な内容を包含してい

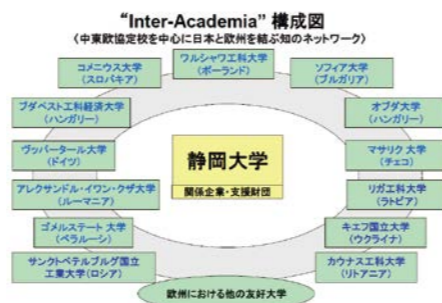
ます。このインターアカデミアの活動は、学生教員の相互訪問、博士課程の複数学位認定制度(DDP)覚書調印、文理学部生の交換留学の活性化など、研究、教育の両面で多くの成果を上げています。令和5年は9月27日から29日までの3日間「インターアカデミア2023」を浜松キャンパスで開催しました。コロナ禍で延期、及びオンラインによる会議実施が続いたため、4年ぶりの対面による会議の開催となった本会議で、インターアカデミアは、平成14年の発足以来、第20回の節目を迎えました。今回は8年ぶりに本学が主催校となり、工学分野を中心とした研究発表と討論、ソーシャルイベントを通じての教育・研究交流に関する意見交換・情報共有が行われました。会議には8か国から108名が会場で、10か国から37名がオンラインで参加しました。



第20回目の「インターアカデミア2023」は本学で開催しました



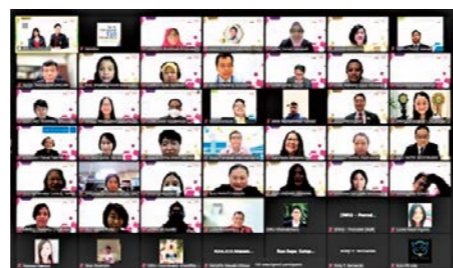
ポスター発表の様子



海外大学との包括連携協定

これからの社会では、これまで以上に活きた国際感覚が求められます。本学では時代の要求に応えるべく、協定校との間で学生の派遣や留学生の受け入れ、教員の研究交流、インターアカデミアをはじめとする協定校等海外教育機関との連携によるセミナーやワークショップの開催など、活発な国際交流を通じて大学のグローバル化を推進しています。令和4年11月には、国際連携推進機構と未来社会デザイン機構が連携して実施するSDGs/ESD推進を掲げた海外協定大学等4か国計6大学のコンソーシアム「JPTI6 Sustainable Development Consortium」(以下、「JPTI6 SDC」)で「第10回 ESD国際フォーラム」をオンライン開催しました。

このESD国際フォーラムを含め、「JPTI6 SDC」が今後も様々な取組のプラットフォームとして活用されることが期待されます。



第10回 ESD国際フォーラムでは20件の発表が行われました

留学生就職支援教育プログラム

本学では留学生支援事業として「ふじのくに留学生就職促進プログラム(SCDP)」(2017-2021 文部科学省委託「留学生就職促進プログラム」)を令和3年度まで運営しました。令和4年度以降は、文部科学省の留学生就職促進教育プログラムの認定を受けて「アジアブリッジプログラム 日本就職コース」を開講しています。「日本語教育」、「キャリア教育」、「インターンシップ」の要素で構成され、履修者は各要素の所定の本学の正規科目の単位取得をします。修了者には修了証明書が発行され、就職活動時に提示できます。



株式会社CSAtravellにてインターンシップを経験したタンさん(左から3人目)



留学生を対象とした就職相談を週2回行っています

海外同窓会

本学では、インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシアで同窓会海外支部を立ち上げています。本会は元留学生、日本人卒業生のみならず、現地で活動をする静岡県内企業・自治体関係者を対象とし、海外における産学官連携ネットワークの基盤となることを目指し活動をしています。



2023年3月にマレーシア・クアラルンプールで小会合を行いました

交換留学(受入)

協定校からの交換留学生を授業料免除で受け入れています。交換留学生は週10時間以上の授業の履修が義務付けられ、自分の専門に応じて、必要な授業を履修することもできます。国際連携推進機構では日本語の授業を行っており、各学期前にはプレイメントテストを行い、留学生の日本語力を判定します。レベル別(レベル1~5)に応じて、日本語授業が開講されます。上級レベルであるレベル5以上の学生に対しては、学部での専門的な授業履修を薦めています。授業計画自体も、来日後に指導教員と相談の上決定します。日本語授業以外にも、日本人学生との交流、ホームステイプログラム、校外学習など様々な活動を提供し、留学生がスムーズに日本社会に溶け込めるようにサポートしています。



日本語の授業を熱心に受講する留学生たち

アジアブリッジプログラム (ABP)

「アジアブリッジプログラム (ABP)」は、本学の外国人留学生を対象に、学士課程・修士課程でそれぞれ展開し、入学から大学生活、卒業後の就職までを一貫して支援するプログラムです。学士課程 (10月入学) は、アジア5か国 (インド、インドネシア、タイ、ベトナム、ミャンマー) を対象とし、入学後は半年間の初学期教育 (ABP基礎日本語、ABP基礎科目) を経て、各学部の学士課程で日本人学生と共に学びます。学士課程 (4月入学) は私費外国人留学生選抜を経て入学した学生対象で、日本人学生と同様、入学時より各学部の学士課程で学びます。修士課程では、アジア16か国からの学生が、全科目英語のみで提供されるABPプログラムに基づいて、情報学専攻、理学専攻、工学専攻、農学専攻、山岳流域研究院のいずれかに所属し、学位を取得することが出来ます。また、日本人学生には、学士課程においてグローバル・アジア特別教育プロ

グラム (旧ABP副専攻) を履修することで、海外企業研修を含めたアジアグローバル人材としての教育を受け、特別教育プログラム修了証書を取得することが出来ます。



令和5年度は、ABP学士課程の第5期生及び修士課程の第7期生を含む、学部卒業生48名、大学院修士課程修了生42名、大学院博士課程修了生12名、13か国の学生が卒業・修了を迎えました

卒業生の声

環境保全で 持続可能な社会に貢献したい

イブトゥ アデ リアン ワルテリカ (インドネシア出身)

工学部機械工学科 (令和4年卒業)

令和4年10月より株式会社ユニバンス/エンジニア勤務

子どもの頃、父に星座を教えてもらったことがきっかけで宇宙に憧れ、宇宙エレベーターなど最先端の宇宙の研究を推進している静岡大学に留学を決めました。在学中は、環境工学の授業で環境に役立つ研究に興味を持ち、「海水中に浮遊したマイクロプラスチックを泡で浮かせることにより回収を容易にする研究」に励みました。また、東南アジアセミナーに参加して、日本の技能実習制度をはじめ、各国の移住制度を比較して議論するなど、様々な国の学生と活発に交流しました。多様な文化への理解を深めることで、グローバルな思考力を身に付けることができました。現在は自動車部品の設計に携わっています。将来は、日本とインドネシアの古くからの環境保全と現代技術を融合させ、持続可能な社会に直接貢献できる起業に挑戦したいです。



富士山登山にも挑戦し、充実した留学を送ったアデさん

語学研修・海外留学制度

本学では、諸外国と学生・教職員の幅広い交流や留学生の積極的な受入れを通して、グローバルに活躍できる人材を育成し、大学の国際化を推進することを目標とし、様々な活動を展開してきました。平成29年10月に設置された国際連携推進機構では、国際連携に関わる戦略を全学的な観点から検討し、本学の理念及び基本方針に沿った総合的かつ効果的な国際連携の一層の推進を図るため、外国語を習得したい、異文化を体験したい、海外の機関で専門の研究をしたい等、意欲のある学生に対して、夏季・春季短期留学をはじめ、交換留学、ILUNO (ネブラスカ大学オマハ校語学留学) やIVSP (アルバータ大学語学留学及び専門科目履修) 等の留学、語学研修の情報を提供し、学生の国際交流活動をサポートしています。

夏季・春季短期留学は、夏休み・春休み期間中に実施する短期留学で、大学間協定を結んでいる大学・教育機関が派遣大学となっています。令和5年度は、夏季短期留学ではアメリカ、カナダ、マレーシア、フランス、春季短期留学ではイギリス、フランスの大学・教育機関が派遣先となっています。語学研修に加え、異文化体験や異文化理解を深めることができ、プログラム修了者は本学の単位も取得可能です。

また、本学は、海外の大学と協定を締結し、協定内の「学生交流の覚書」に基づき、交換留学を実施しています。派遣先では、自分の専門あるいは興味のある分野の学部・専攻に所属し、単位を取得します。帰国後、提出物や成果発表会への参加等の条件を満たした場合、全学教育科目「海外交換留学プログラムI」「海外交換留学プログラムII」の認定を受けます。また、留学先で取得した単位は、内容やレベル、時間数などが本学で開講されている科目と同等であると所属学部で認められた場合、本学の全学教育科目または専門科目の単位として認定されます。なお、留学先大学での授業料は協定に基づき免除になります。



語学研修やその後派遣先の授業を受講する機会として、ILUNO (ネブラスカ大学オマハ校語学留学) やIVSP (ア

ルバータ大学語学留学及び専門科目履修) があります。ILUNOは、ネブラスカ大学オマハ校 (UNO) で行われる



英語研修で、アメリカ中西部で最も歴史があり、評判の高い研修となっています。ILUNOをステップに、本格的な長期の留学に繋げる学生も多くいます。ネブラスカ大学オマハ校のILUNO担当スタッフが、生活・学習のアドバイス、学部授業の履修登録のサポート等をしてくれます。一方、IVSPは本学協定校であるアルバータ大学 (カナダ) のプログラムです。7週間又は14週間の英語研修 (ESL) でアカデミックな英語力を鍛えてから、現地の学生に混ざってアルバータ大学の学部の授業を受講することができます。アルバータ大学のIVSP担当のスタッフや学生コーディネーターが、空港ピックアップ、各種セミナーその他、在宅で実施できる短期留学として、夏季休業や春季休業中受講できるオンライン研修も多数用意されています。オンライン語学研修は、カナダのほか、フィリピン・オーストラリア・韓国・中国といった様々な国の研修の中から選ぶことができます。研修には現地の学生との交流や文化体験なども含まれ、外国の言語や文化を体験でき、留学の準備として活用することも可能です。ほとんどの研修は、修了後、全学教育科目の英語又は初修外国語の単位 (2単位) として認定を受けることができます。

上述の大学間協定は、学士課程だけでなく、大学院博士課程・修士課程教育においても締結されており、協定に基づいてダブルディグリープログラム (DDP・国際連携学位認定制度) を開講しています。DDPとは、本学の自然科学系教育部 (博士課程) と総合科学技術研究科工学専攻 (修士課程) の学生が、本学と相手校に同時に在籍し、両大学それぞれの指導教員から共同指導を受けて、最終的に両大学の学位を取得するプログラムです。

さらには、海外で学術活動を行うためのサポートとして、専任教員による英語カウンセリング (ENGLISH COUNSELING) があります。ENGLISH COUNSELINGでは、国際学会等でのプレゼンテーションの仕方や論文の書き方を学び、国際社会に広く活躍できる人材を育成しています。